

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

科目名		ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
理学療法治療学			必修	2	2	前期
担当教員		研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
粕山 達也		D311	kasuyama		月曜日 14:40~16:10	
授業の目的・概要	理学療法を実施するにあたり、理学療法評価をもとにした最適な治療計画を立てる必要がある。個人の年齢や性別、運動能力、疾病の有無など健康状態を理解した上で、治療方法の選択をするための思考過程を学習する。各回の内容について、動画を含めて問題点に対する治療方法を理解し、その後の課題を通じたフィードバックと Teams を利用した意見交換を行い、治療プログラムの系統的プロセスを習得することを目的とする。					
学習上の助言	授業内容に関する質問は、授業中及びオフィスアワーの時間に受け付けている。積極的に質問して疑問を解決し、理解を深めて欲しい。					
教科書	PT 症例レポート赤ペン添削 ビフォー&アフター/著:相澤純也、美崎定也、石黒幸治/羊土社/2016					
参考書	理学療法評価学 第6版 著:松澤正 他 金原出版					
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針		
①	治療プログラムを作成するために必要な基本的知識を習得している。			HSU(4), PT(3)		
②	年齢・性別・疾患の違いに応じた治療プログラムとリスク管理を作成できる。			HSU(3), PT(2), PT(3)		
③	評価結果から問題点の抽出を行い、提示した課題についてまとめることができる。			HSU(3), PT(4)		
④						
⑤						
⑥						
授 業 計 画						
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)			
1	理学療法治療学概論	同時双方向型授業	理学療法評価の一連の過程を教科書で確認する。	4		
2	理学療法の治療の種類について学習する。	同時双方向型授業	理学療法の治療の種類について教科書で予習する。	4		
3	形態の変化に対する理学療法について学習する。	同時双方向型授業	形態の変化に関する評価方法を確認する。	4		
4	関節可動域制限に対する評価から治療の流れについて学習する。	同時双方向型授業	関節可動域制限に対する評価方法を確認する	4		
5	関節可動域制限に対する理学療法について学習する。	同時双方向型授業	関節可動域制限に対する運動療法を確認する	4		
6	筋力低下に対する評価から治療の流れについて学習する。	同時双方向型授業	筋力低下に対する評価方法を確認する。	4		
7	筋力低下に対する理学療法について学習する。	同時双方向型授業	筋力低下に対する運動療法を確認する。	4		
8	疼痛に対する評価から治療の流れについて学習する。	同時双方向型授業	疼痛に対する評価方法を確認する。	4		
9	疼痛に対する評価から理学療法について学習する。	同時双方向型授業	疼痛に対する運動療法を確認する。	4		
10	運動耐用力 (持久力) 低下に対する評価から治療の流れについて学習する。	同時双方向型授業	運動耐用力低下に対する評価方法を確認する。	4		
11	運動耐用力 (持久力) 低下に対する理学療法について学習する。	同時双方向型授業	運動耐用力低下に対する運動療法を確認する。	4		
12	治療時におけるリスク管理について学習する。	同時双方向型授業	配布プリントを復習する。	4		
13	モデルケースに対する問題点を考慮した運動プログラムとリスク管理について学習する: 課題の提示	同時双方向型授業	モデルケースに設定した運動プログラムとリスク管理が妥当であるか確認する。	8		
14	モデルケースに対する問題点を考慮した運動プログラムとリスク管理について発表する	同時双方向型授業				
15	総括	同時双方向型授業	作成資料及びこれまでの授業資料を確認する。	4		
試	定期試験					

【2021 年度/専門科目領域/専門科目群/理学療法学科】

総合評価割合 (%)		達成度評価					合計
		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	
		0	50	0	0	50	
総合 力 指 標	知識・技術力	0	10	0	0	20	30
	思考・推論・創造する力	0	10	0	0	10	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0
	発表・表現伝達する力	0	10	0	0	10	20
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0
	取組みの姿勢・意欲	0	10	0	0	10	20
	問題を発見・解決する力	0	10	0	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
試験	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
レポート	①	✓	モデルケースに対して作成した運動プログラムとリスク管理について発表し、その内容により判定する(30%)。発表の評価基準表は講義内で配布する。また発表の際に、聴講者は発表者の内容をリアクションペーパーにまとめ、提出を求める(20%)。				15回目に、各モデルケースに対する考え方について資料を提示しながら解説していく。
	②	✓					
	③	✓					
	④						
	⑤						
	⑥						
成果発表	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
ポートフォリオ	①						
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
その他	①	✓	各講義で課題(50%)の提出を求め、その内容を採点し、評価する。課題は、各疾患に対する運動プログラムおよびリスク管理に関する問題を出題し、理解度を問う。				模範を解答を提示して解説する。
	②	✓					
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
備 考							
<p><b>担当教員：</b>◎粕山 達也</p> <p><b>教員の実務経験：</b>理学療法士(臨床経験 15 年) 整形外科クリニック 6 年 訪問リハビリテーション 9 年 日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー(臨床経験 15 年、資格取得後 5 年)</p> <p><b>実践的な授業内容：</b>臨床現場に多い疾患・問題点に関する講義を行い、症例を提示した実践的な学習課題を提供する。</p> <p>課題のフィードバックは、課題の解説にて返却する。意見交換については、原則として授業時間内に行うがメールや Teams でも随時対応を行う。</p> <p>Teams を使った同時双方向型授業を行う。授業時は通信容量が無制限の Wifi 環境を推奨する。遠隔授業では、課題のダウンロードや動画視聴などがあるため、通信量に十分に注意すること。 今後の感染症の状況など、社会情勢に応じて再度シラバスの変更が生じる可能性がある。</p>							